



コロナ禍でのふれあい・いきいきサロン活動 ヒント集



令和2年末～令和3年1月にかけて、「コロナ禍におけるふれあい・いきいきサロン活動に関するアンケート調査」を行いました。多くのサロンの代表の皆さんにご回答いただき、誠にありがとうございました。皆さんからいただいた貴重なご意見をここにまとめました。

令和2年度は新型コロナウイルス対策としてお休みされるサロンも少なくありませんでしたが、自宅に閉じこもっていると、体力の低下だけでなく、認知症の進行などの危険性も高まります。ここに書かれている内容を参考に、少しずつサロン活動を再開していただけるとありがたいです。

もちろん、地域活動を通して新型コロナウイルス感染症の感染者を出すわけにはいきません。流行状況に応じて、引き続き市社協から一時的に活動をお休みしていただくようお願いすることもありますので、ご協力をお願いします。

1. アンケート回答率

149 サロン中、126 サロン (85%) にご回答いただきました。

ありがとう
ございました



2. 令和2年度12月末時点での活動回数

平均 5.66 回

- ・活動回数が0回のサロンは18サロン（回答のあったサロンの14%）です。
- ・最も活動回数が多いサロンは126回活動されていました。

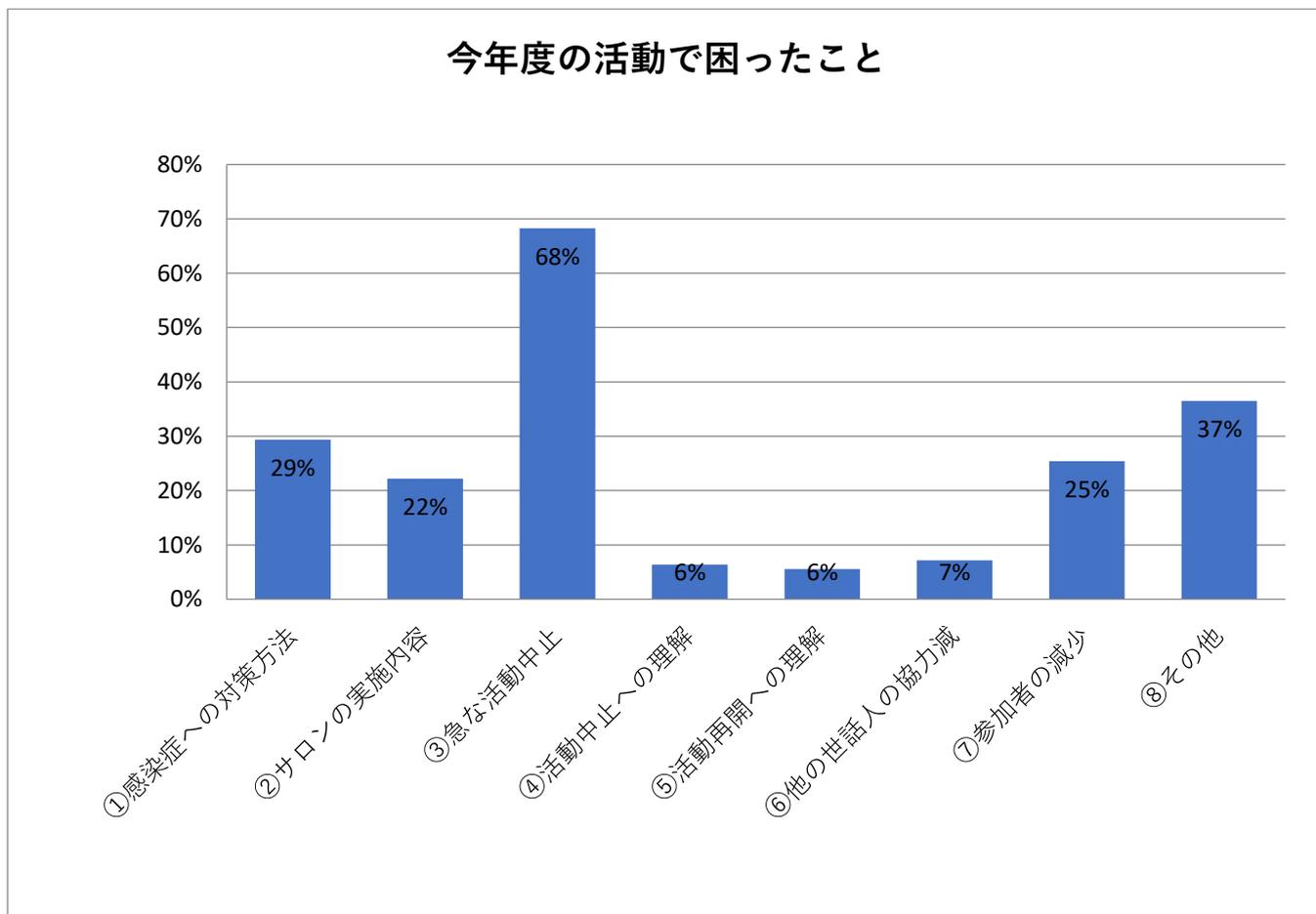
※サロンの活動回数については、もともとの活動予定が年6回のところもあれば、週に何度も活動されるサロンもありますので、平均活動回数は参考値です。

3. 今年度の活動において困ったこと

令和2年度は、4月～6月まで市社協より新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、サロン活動を中止するようお願いしていました。7月以降は、感染症予防の対応をとったうえで活動再開をお願いしていましたが、その後も新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、活動の一時中止をお願いしています。開催直前になってサロン活動を

中止せざるを得なくなるなど、お世話される方にはご負担をおかけしておりますが、感染症予防のためご協力くださり、ありがとうございます。

現在は、「鳥取県版新型コロナウイルス警報」の警報または特別警報発令中は、サロン活動を中止していただくようにしております。引き続きご協力をお願いいたします。



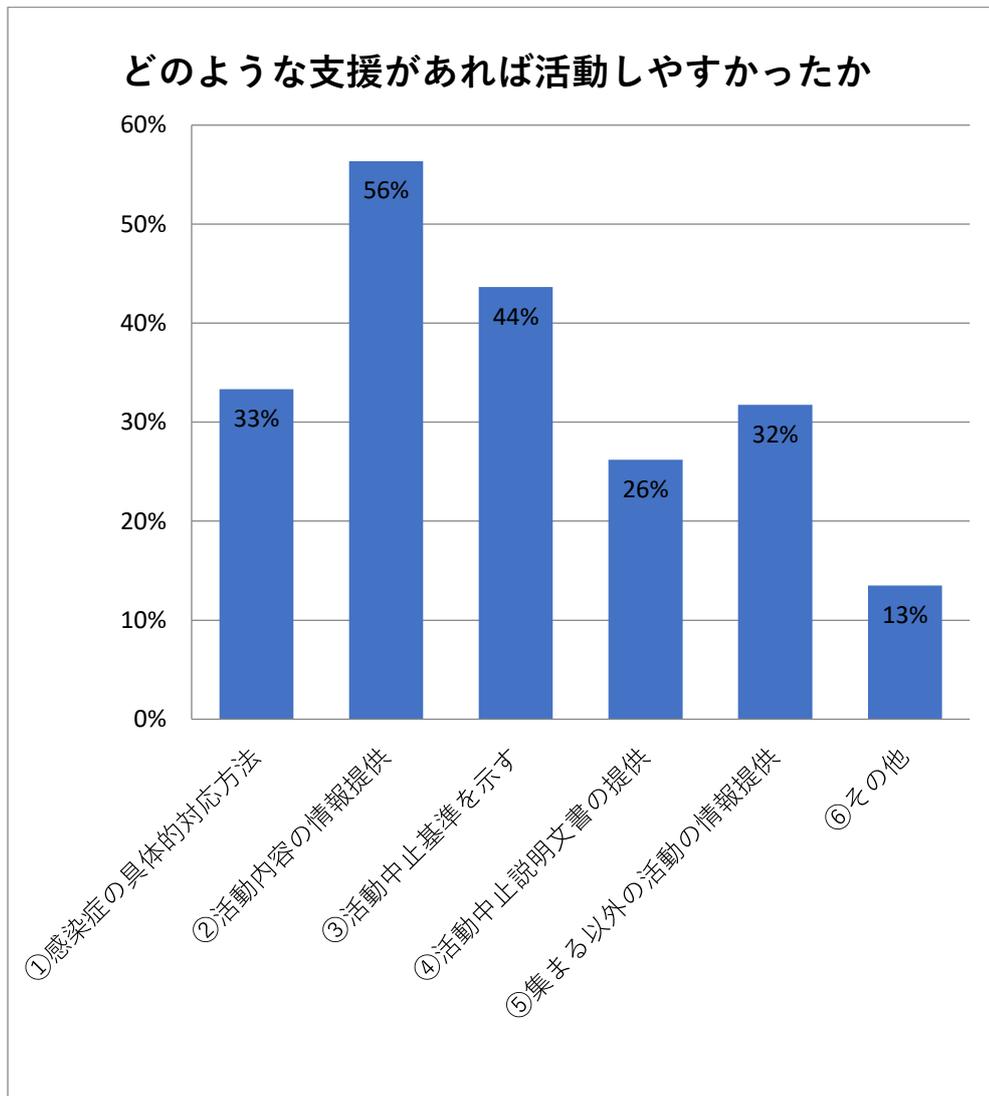
急に活動を中止しなければならず、困ったというご意見が約 7 割となっており、最も多かったです。急な中止連絡のために、リレー電話表を作ったというサロンもありました。

感染症への対策方法がわからないとのご意見も約 3 割ありましたが、市社協よりお示していた対策方法や、メディア等から得た情報を参考にして対策をとられているサロンも多くありました。

その他の項目では、活動を実施するかどうかについて意見の対立があった、様々な理由から活動を休止せざるを得なかった、現在の活動場所ではソーシャルディスタンスの確保が難しい等のご意見がありました。

4. どのような支援があれば、活動しやすかったか

新たな感染症への対応は、市社協としても初めての経験だったため、内部で協議を重ねながら対応を決め、皆さんにお知らせしてきました。この経験や、皆さんのご意見を、今後の対応に活かしていきたいと思っています。



半数以上のサロンが、活動内容についての情報提供を望んでおられました。この冊子にとりまとめておりますので、ぜひご活用下さい。

5. コロナ禍での活動に際し、工夫した点

各サロンが、マスク着用と手指の消毒、3密（密集、密閉、密接）に注意して取り組んでおられました。体温測定やマスク着用への協力依頼、体調の悪い方の参加はご遠慮いただくなど、事前に参加者にお知らせした上で、感染症の対応をとって下さっています。

3 密回避のための工夫

- ・広い会場に変更する。→近隣の自治会の集会所を借りたサロンもありました。
- ・少人数に分散して行う、二部制にして行う。
- ・屋外での活動にする。

サロン運営上での工夫

- ・お茶はペットボトル等、使い捨てや個別で対応できるもので準備する。
- ・お菓子は個包装の物にし、参加者間で共有しない。
→個別に紙皿に準備、小分けの袋に入れて持ち帰り形式にするなど。
- ・開催時間や茶話会の時間を短縮する。
- ・会食は中止し、お弁当の配布に切り替える。
- ・テーブル、イス等の備品や、トイレ等の設備の消毒。
- ・大声にならないよう注意する。
- ・参加者名簿の作成。



サロンが開催出来なかった場合も、繋がりが途切れないよう、新たな形で活動をされているサロンもあります。

- ・スタッフが参加者に出会うたび、声かけをするよう心がける。
- ・お便りを配布して、見守り活動をする。
- ・手紙や年賀状を出し、自宅で歌ったり体を動かしたりするよう促す。
- ・中止になった時には、お菓子や作成予定だった物を配布して安否確認する。
- ・連絡網を新しくして、中止や再開の連絡をする。横の繋がりが深くなった気がする。
- ・自宅でできる内容をお渡しする。（なぞなぞ、脳トレなど）
- ・投句方式で川柳に取り組む。

久しぶりのサロン開催で参加者の笑顔が見られた、会う事の大切さを再認識した、（会食を中止してお弁当を配布したら）同じものを食べる共有感があって良かった 等のご意見もありました。

皆さんの工夫で素敵な活動に広がっています。ありがとうございます！



6. コロナ禍でも活動しやすかった・好評だった内容

参加者同士の接触が少ない内容、複数の人が話す機会が少ない内容で取り組まれています。

- ・講演を聞く。（お薬の話、歯の話と誤嚥予防体操、特殊詐欺、認知症、熱中症、コロナの話など）
- ・屋外でのスポーツ（グランドゴルフなど）やゲーム。
- ・ミニ運動会。
- ・公園等の清掃作業。
- ・体操（よな GO!GO!体操、フレイル予防体操、ええがん体操、ストレッチ、新聞紙の棒を使った体操、米子市からインストラクター派遣等）
- ・とっとり方式認知症予防プログラム。
- ・飛沫防止のため厚いビニールで簡易パーテーションを作成し、サックスコンサート。
- ・じゃんけんゲーム、脳活性ゲーム、なぞなぞ等。
- ・個別に取り組める作品づくり。（アートフラワー、手芸作品、七夕飾り等）
- ・紙芝居。
- ・生け花。

ふれあい・いきいきサロンへの講師の派遣支援を利用されたサロンもありました。これまでは米子市福祉政策課が窓口となっていましたが、**令和3年4月より米子市社会福祉協議会福祉のまちづくり推進課が窓口に変更となります**ので、**ご注意下さい**。

従来の講師派遣のリスト以外にも、株式会社目久美（骨の健康チェック・身体についてのお話・運動指導等）、日本赤十字社（「新型コロナウイルス」に関連した人権研修）、臨床美術（別途、材料費等が必要です）などの講師派遣も可能です。

ご連絡先：米子市社会福祉協議会福祉のまちづくり推進課

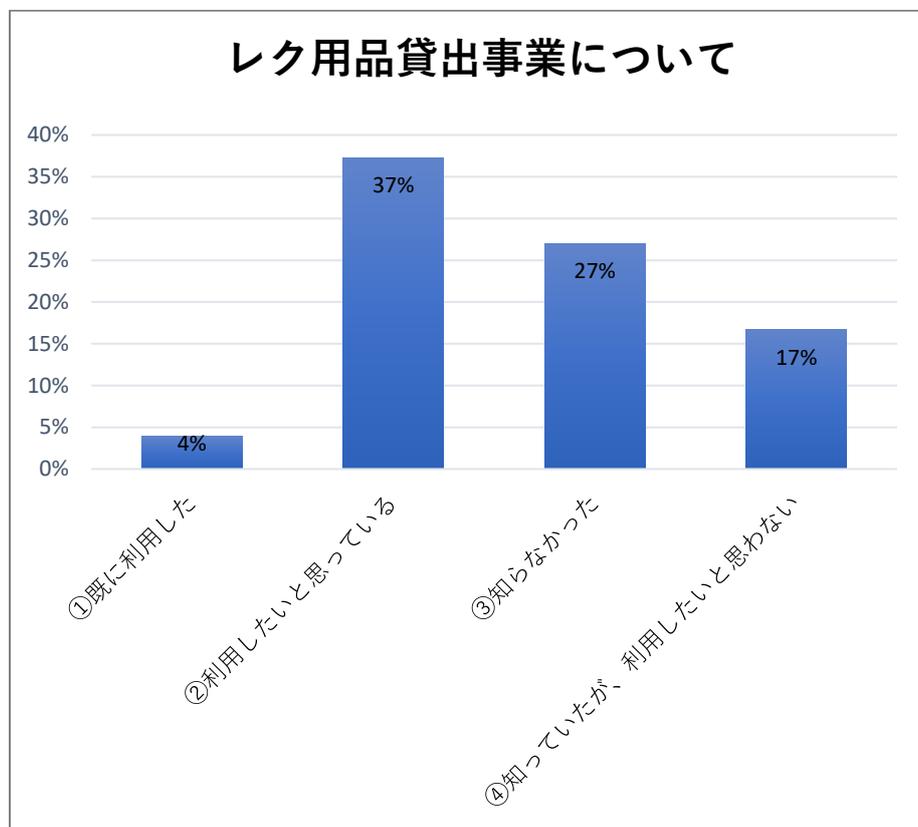
☎（0859）23-5473（直通）

また、米子市ボランティアセンター登録団体の中にも、サロンでの公演等が可能な団体があります。興味を持たれた方は、下記までご相談下さい。

米子市ボランティアセンター ☎（0859）23-5455

7. 市社協で実施しているレク用品物品貸出事業について

令和2年10月より米子市社会福祉協議会では、レクリエーション用物品貸出事業を行っています。各公民館の他、市社協のホームページでもリストを閲覧できますので、ぜひご利用下さい。



・貸出したレク用品は、返却の度に消毒していますので、安心してご利用下さい。

コロナ禍では、近隣同士であっても会いにくい、外出しにくい状況もあるかもしれません。しかし、サロン活動は、地域の中で住民同士が繋がるための大切な活動です。コロナのために繋がりが切れてしまい、地域の中で孤立したり、困ったりされているかもしれません。コロナ禍の中、どのような対策をとれば安心して集まれるのか、集まれないのであれば地域の皆さんとの繋がりをどうすれば維持できるのか、このヒント集をきっかけに地域で話し合ってみませんか。新たな地域での支え合いに繋がるかもしれません。

令和3年2月

米子市社会福祉協議会福祉のまちづくり推進課